

.....

【体験した事例の直接的な原因について】

【体験した事例について】

事例情報シート (2008)

9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。
----------------------------------	----------

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[36]歳、 勤続年数[18]年、 現場経験年数[15] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[30]歳、 勤続年数[11]年、 現場経験年数[8]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 []
○当事者 C	年齢[34]歳、 勤続年数[12]年、 現場経験年数[2]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	年齢 36 歳、勤続 13 年 現場経験 5 年 消防士長

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A、B、C、D	日没前に救命ボートで水難救助現場へ出向	
経過 2	A	救命ボートからアンカーを降ろし救助活動指示	
経過 3	B、C	環状検索実施	
経過 4	A、B、C、D	日没となり視界不良のため航行困難	
経過 5	A、B、C、D	近くにいた海保の船に誘導してもらい着岸	
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難・退避がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

現場付近見取図（救助）平成18年7月30日



・発生日時 : 平成18年7月30日 午後8時頃

経過	現場の状況	隊員A(船上指揮者)	隊員B(潜水土)	隊員C(潜水土)	隊員D(船舶操縦者)	備考	
		車長／消防士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 18 年 ・現場 15 年 ・同様の活動: 初めて	消防副士長 ・年齢 30 歳 ・勤続 11 年 ・現場 8 年 ・同様の活動: 初めて	消防士長 ・年齢 34 歳 ・勤続 12 年 ・現場 2 年 ・同様の活動: 初めて	消防士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 13 年 ・現場 5 年		
	水難救助訓練	資機材を準備				強力ライト等を携行していたが、夜間航行するには不十分な装備	
	沖合い約300mの海域	日没前に5人乗り救命ボート1隻で水難救助現場へ出向					
		救命ボートから海底にアンカーを降ろし救助活動指示					
		潜水士2人(隊員B及び隊員C)が環状検索実施					
		救助に時間を要する					
	日没となる	視界不良のため航行困難、陸に引き返せなくなる					日没までの時間と救助活動に要する時間を予測したが、予測時間に誤差があった。
		現場で救助活動中の海上保安署巡視艇に誘導してもらい着岸					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○直接的な原因: 状況判断に問題があった。行動の意志決定に問題があった。
・避難・退避がうまくいった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

(心理・体調について)
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
・活動に対する経験が不足していた。
(装備・資機材について)
・必要とする装備・資機材がなかった。
(指揮・管理について)
・指示内容に誤り・偏りがあった。